



JARA NEWS

October 2016, No. 104

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shirawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



JARA、リサイクル 部品生産でタブレット 端末を活用

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）は、リサイクル部品の生産でタブレット端末を活用する。部品生産作業の大幅な効率化を実現するのが狙いで、タブレット上で車両と商品の情報、画像の登録が行えるようにする。タブレットは本部が斡旋し、9月中旬にもATRSシステム向けにサービスを開始する計画だ。

パソコンでの操作を主体としていたATRSシステムを改良し、タブレット端末でも操作できるようにした。これまで商品情報の登録は、生産担当者が用紙に記入した上でパソコンを使って入力しシステムに登録していたが、新サービスではタブレット画面で直接入力できるようになる。

商品画像の登録も同様だ。従来はデジカメで撮影した画像をパソコンに取り込んだ上でシステムに登録していたが、新サービスではタブレットのカメラ機能を活用して登録できるようになる。画像登録についてはタブレット専用の機能として、4枚の画像を1枚として表示する「4分割」機能を備える。例えば「パンパードと、全体写真、裏側、キズやへこみなどを1枚として登録できるようになる」（JARA）という。

現在、JARAは会員の業務効率化支援を強化している。今回のタブレットを活用した新サービスのみならず、最近ではリサイクル部品の販売実績（ビッグデータ）などをもとに、使用済み自動車の見積もり価格を自動算出する新しいツールや、共有在庫システムで検索した

部品情報をLINE（ライン）などのSNSで顧客に送信できる新機能を開始するなど、業務支援策を相次いで打ち出している。北島社長は「当社の新しいサービスや機能をきっかけにリサイクル業界全体が活性化することが望ましい」としており、今後も会員支援を通じた業界活性化を強化していく方針だ。

（日刊自動車新聞9月8日）

JARA、新決済 サービス導入 部品生産会社対象 万が一の資金繰り支援

日本自動車リサイクラーズ・アライアンス（JARA、北島宗尚社長、東京都中央区）は、新決済サービスを9月の請求分から導入する。JARAシステム（ATRS）から発注した部品購入代金の決済条件を、従来の「月末締め翌月末払い」から「月末締め翌々月1日払い」に変更できるようにする。対象は部品生産会社で、導入については会員の任意となっている。

会員は新決済サービスの導入で、支払期日を約10日間先送りすることが可能になる。この期間は株式会社JARAが代金を立て替え、「万が一の時の資金繰りを支援する」（北島社長）考えだ。

手数料は銀行金利よりも安く設定し、利用しやすくしたという。

まずはJARAシステム利用会員を対象にするが、今後スーパーラインシステムを含むJARA全体に適用する方針。生産会社だけでなく、部品販売会社に広げることも視野に入れている。

現在、自動車リサイクル市場はスクラップ相場が低迷し、部品販売を強化する事業者が増えている。こうした環境下で「会員の運転資金は増加しており、回収遅れも発生している状況。その中で会員の安心感につながるセーフティネットとしてサービスを提供する」（同）ことにした。

（日刊自動車新聞9月1日）

リビルト・GP部品提

携会社と懇話

JARAはこのほど、平成28年度上期「リビルト・GP部品提携会社様との懇話会」を開催した。1～6月の販売推移を振り返るとともに、4月からスタートした新運用制度など上期施策の総括、下期の取り組みについて説明した。北島社長は「足下の市況は厳しいが、秋、冬に向かつて何ができるかを皆さんと話していきたい」と挨拶した。

新運用制度はISOの取得とPL保険の加入有無を取引の規準とするもので、4月から実施している。会ではリビルト事業者から「フロントが自信を持って進められる規準としてわかりやすい」と評価の声が上がる一方、「品質を高めるのはISOやPLだけではない。目に見えない努力も考慮すべき」、「例えばクレーム率を集計し、公表したり表彰したりする仕組みを作ってはどうか」といった意見も出された。

下期の取り組みとしては、10月に関西で工場見学会を開催するほか、各種キャンペーン、研修会なども実施する。



「リビルト・GP部品提携会社様との懇話会」の様子

<http://www.jara.co.jp/>



業界の枠を超えて好事例やノウハウを共有する（自動車リサイクル）

環境省、リサイクル製品や制度の枠を超えて共通回収スキーム構築

環境省は、自動車や家電、建設など個別物品ごとに取り組んできたリサイクル政策の連携強化に来年度から乗り出す。廃棄物の共通回収スキームなどの構築を目指すほか、採算改善手法などの好事例を関係業界で共有する。リサイクル制度の安定的な運用や高度化につなげるのが狙いだ。

「リサイクルシステム統合強化による循環資源利用高度化促進事業」として2億2600万円の来年度予算を要求し、具体化に着手する。国はこれまで、ゴミ問題などの社会的要請を背景に容器包装（ガラスびんやペットボトル）、建設廃材、家電、自動車などのリサイクル制度を個別に構築し、運用してきた。こうした取り組みは一定の成果を挙げた半面、回収や分別のコストが採算の足を引っ張り、高度化が進みにくいなどの共通課題も浮上。物品の排出方法も異なり、消費者や事業者にとって必ずしもわかりやすい制度にはなっていない。

このため環境省は、物品や制度の枠を超えて予算や政策を運用し、共通回収スキームを作ってリサイクルの採算改善につなげたり、分別や解体、再利用などに関するノウハウを共有して再生部材の低価格化や普及を目指すことにした。

一方で必要に応じ、個別政策も続け

る。自動車リサイクル関連では、再生樹脂を多く使う新型車へのインセンティブ制度を構築するほか、次世代自動車に使われるCFRP（炭素繊維強化プラスチック）やモーター、2次電池などのリサイクル対応も進めていく考えだ。

（日刊自動車新聞9月6日）

国交省、5年間で2級程度の能力を外国人整備技能実習生向けガイドライン策定

国土交通省は自動車整備業で働く外国人技能実習生が適正な整備技術や知識を習得できるよう新たにガイドラインを策定する。政府が整備業の研修実施期間を3年から5年に延長する方向で検討していることをにらみ、5年間で日本の整備士資格の2級程度の能力を身に付けられる内容にする方針。適正な整備技術や知識が習得できるよう指針を示し、外国人人材の技能向上と受け入れる整備事業者の人材不足の改善につなげる。

自動車分野の生産性向上策として、来年度の概算要求に計上した。検討中の外国人技能実習制度の見直し法案では各事業を所管する大臣が組織する事業協議会を設置することが盛り込まれており、この協議会の運営費として活用する。協議会は関連する省庁や団体、事業者などで構成する見通しだ。

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果
参考値 平成28年8月

3,434t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方に基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

外国人技能実習生は来年度はじめに受け入れが本格化する予定だが、「どれだけの数を実際に受け入れるかや、具体的な実習状況の様子などは始まってみないとわからない」状況だ。このため国交省は来年度に実態調査を実施。実習生の受入数や、受け入れ企業が適正な業務に従事させているかを探りたい考え。調査結果や業界との議論などを基に、ガイドラインの内容を練り上げる。実態調査は今後、定期的に行う方針で結果に合わせてガイドラインの内容も改訂していく。

現在、整備業を対象とした実習制度は最長3年間で日本の整備士資格の3級程度の能力を身に付けられるよう、日本自動車整備振興会連合会が試験制度を構築している。国交省は実習期間が5年に延長された場合に、外国人技能実習生が実習期間に見合った能力を身に付けられるようガイドラインを策定したい考え。高度な整備技能が修得できる環境を整え、精度の有効性を高めていく。

（日刊自動車新聞9月26日）

PLACE AD

Advertiser wanted!

Advertise your excellent products and services to readers in the automotive recycling industry around the world!

Contact with JARA Corp.

<http://www.jara.co.jp/>

KOBELCO

低燃費のコベルコ!
低炭素社会の実現へ

コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、
30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、
環境負荷の低減に貢献してきました。

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および
さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。



SK135SRD

SK210D

コベルコ建機株式会社
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Reducing a Carbon Society

New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979,
KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry.
For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life cars,
Multi-Dismantling Machine can break down
various metal products and equipment
such as used household appliances and
can separate and sort various composite
material wastes.

Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently
separates and sorts raw materials in
end-of-life cars and is able to recover
rare earth metals.



SK210D



SK210D

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
<http://www.kobelco-europe.com/>
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
<http://www.kobelco-usa.com/>

KOBELCO

神鋼 无坚不摧!
您满意的选择

新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来，
30多年来一直引领金属再生领域，
在降低对环境压力方面功不可没。

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以
拆除废家电等金属制机器以及各种复合
废弃物品的拆除、分类作业。

汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，
能够回收稀金属资源。



SK135SR

SK200

成都神鋼工程机械(集团)有限公司
<http://www.kobelco-jianji.com/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Reducing a Carbon Society

새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래,
30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞장서서
환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의
해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR



SK200

(주)삼정건설기계
<http://www.samjung-kenki.co.kr/>